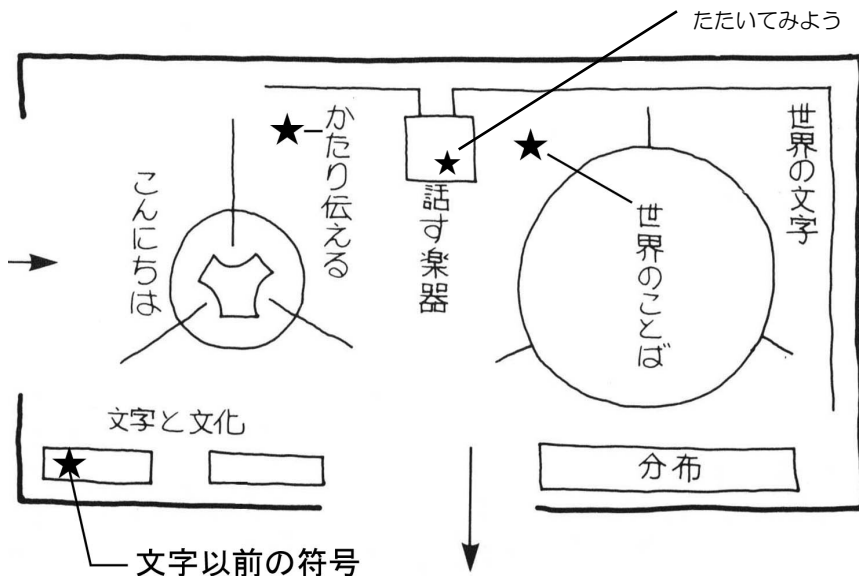


ほんかんだい しつ げんご 本館第3室：ことばの世界——言語

“ことば”はヒトを他の生き物から区別する特徴のひとつです。
 人類は、数万年前から言語を使用していたと考えられています。
 お互いの意志を伝え合うために、音や声を発し、記号を用い、
 そしておよそ 5,000 年以上も前に文字を発明しました。言葉の
 使用は、抽象的 思考を可能にし、また知識を次の世代に伝達し
 集積させていくのに重要でした。

この展示室では、言語の役割とその多様性を、民族資料と
 ともに音声や映像で紹介しています。

★体験コーナー
 ファン人の太鼓を
 たたいてみよう



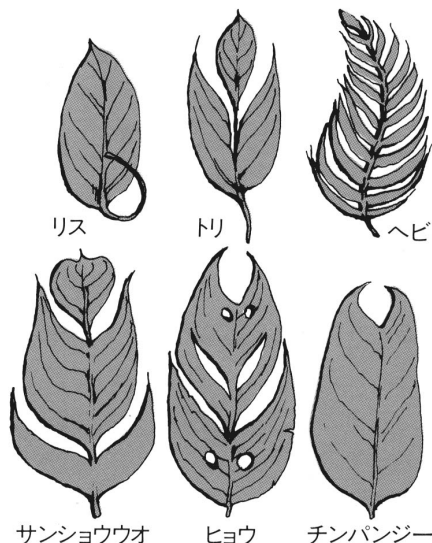
LANGUAGE

To communicate with each other, human beings use languages
 consisting of sounds, writings and symbols. This hall explains
 the role and diversity of languages.

文字以前の符号—エコンビ^{ふごう}

コンゴ民主共和国（旧 ザイール）
のイトウリの森で採集^{さいしゅう} 狩猟^{しゆりよう} 生活を
する民族ムブティが、カサブルとい
う植物の大きな葉でつくるエコンビ
と呼ばれる目印は、動物の種類や
自分の属する集団をあらわします。

獲物^{えもの}を追うとき、根元^{ねもと}を進行方向
に向けて置いてゆくことによって、
道に迷わず、仲間に行き先を伝える
ことができます。



話す楽器：太鼓ことば^{たいこ}

西アフリカから中部アフリカにかけての地域では、人間が話す言葉の
特徴^{とくちょう}をなぞって、太鼓の音の高低^{こうてい}、強弱^{きやうじやく}、長短^{ちやうたん}によりメッセージを伝える
習慣^{しゅうかん}があります。写真はカメルーンのファンの太鼓です。

マホガニー製のこの太鼓の音は数 km 先まで届き、森に働きに出かけて
いる仲間を呼び戻したり、他の村へ何かを伝えたいときに用います。

熱帯雨林の森では狼煙^{のろし}を
あげても煙は葉に遮^{さえぎ}られて
しまいます。一方、太鼓の音
は人間の声よりも遠くまで
響くため、電話や無線^{むせん}の
ない時代、とても優れた
通信手段^{すく}でした。現在でも
祭りや儀礼の場を中心に
使用されています。

